

新除草・調節剤

カヤライト粒剤

メトキシフェノン・SAP除草剤

試験名：NK-049S粒剤

(取扱メーカー) 日本化薬株式会社
対象作物：水稲

性状・作用特性：本剤は3,3'-ジメチル-4-メトキシベンゾフェノン(メトキシフェノン)8%と0,0-ジイソプロピル-S-(2-(ベンゼンスルホンアミド)エチルジチオホスフェート(SAP)3%を含有する除草剤である。

メトキシフェノンは炭素、水素、酸素のみからなる化合物で、それ自体極めて低毒性である他、日光あるいは微生物の作用により比較的速やかに分解し、毒性の低い簡単な構造の代謝物になり、遂には炭酸ガスと水になる。メトキシフェノンの作用性は非ホルモン、吸収移行型で白化殺草性を示す。メトキシフェノン単剤でも水田1年生雑草に効力が認められるが、SAPを混合することにより安定した効力が得られる。本剤は幼芽部吸収が主で、根部よりの吸収は

ほとんど認められない。まれに稲に白化症状が認められる場合があるが、日を経るとともに消失・緑化し、実害は認められない。

本剤は移植前後処理または移植前土壌混和処理で、ノビエ、カヤツリグサ、広葉雑草等に有効である。

毒性・人畜毒性：メトキシフェノンは急性経口毒性LD₅₀=4000mg/Kg以上(ラット、マウス)、魚毒48時間後TLMはマゴイで3.2ppm、和金で10.0ppm、タマシジコ7.8ppmである。3カ月亜急性毒性(ラット、マウス)の最大無作用量は100mg/Kg/dayである。

SAPは急性経口毒性マウス(♂)LD₅₀=1540mg/Kg、ラット(♂)590mg/Kgであり、魚毒はB類である。

使用法：現在登録申請中であるが、田植前2～0日、または田植後2～5日に10a当たり3～4Kgを散布する。砂質土壌あるいは漏水田では効力がふれることがある。稚苗および成苗の移植前土壌混和処理は現在試験中であるが有望である。

編集後記

陸月には、立春一雨水と春の胎動がはじまり、そろそろ動植物の活動のきざしがうかがえる。

枯葉や枯草に埋もれているが、その下では、新しい雑草の生命が動きはじめ、やがて雑草の天下を治めようとしている。人間どもは、表面にみえる雑草にしか気をとられず、泰然自若として構えているが、これでは雑草勢に屈伏せざるを得ない。

雑草退治は、先手を打って土壌処理剤を早めに処理することが有効だ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和48年2月発行

第6巻第11号

¥90(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番